



ほんとう
真実の自分を求める、
それぞれの心の旅。

舞台は南インド——
性同一性障害に苦しむ
叔父の後を追った少女が
迷い込んだのは、
インド最大の
ゲイ・フェスティバル!?

ナヴァラサ

NavaRasa

監督・撮影・脚本・製作：サントーシュ・シヴァン
出演：シュエータ、クシュブー、ボビー・ダーリン

2005年／インド／1時間39分／1:1.66／ドルビーSR
配給：オフィスサンマルサン、カグス 協力：チャンネルアジア

05年インド・ナショナルアワード最優秀タミル映画賞
05年モナコ国際映画祭インディペンデント・スピリット賞&助演男優賞

[HTTP://WWW.SANMARUSAN.COM/](http://www.sanmarusan.com/)

男が女になるって、どういうこと？ ヒジュラの国のアリスは途方に暮れた。

13才の少女シュエータは思春期の多感な時期。ある日、叔父ガウタムがきらびやかに女装しているところを目撃し、ショックを受ける。問い詰めるシュエータに叔父は、自分は生まれつき体は男だが心は女だったと告白する。そしてまもなく始まるクーヴァガム村の祭で女として生きることを誓うと。おりしも両親は不在、家を出た叔父を少女は追う。

しかし、村への道は、祭に参加するオネエ言葉のヒジュラたちで一杯。そのうえ、北インドからやって来たオカマちゃんキャラのボビーが、道案内させようとシュエータを追い回す。ボビーは祭の前日に行われる「美人コンテストに出るの」と言う。「最悪!」と嘆くシュエータだが、結局ボビーとふたりで旅するはめに。最初はボビーを拒んでいたシュエータだが、ふとしたきっかけで心を開く。そして叔父のような人間は大勢いて、みな周囲の無理解で苦難の人生を送っていることを知る。こうしてシュエータは、ボビーに導かれ、全く知らなかった世界を体験していくのだった。はたして叔父さんとシュエータの運命は？

30万人もの人が集まる 本物の祭典が舞台!

南インドの小さな村クーヴァガムの祭は、実在する女装フェスティバル。いつしかヒジュラと呼ばれるインド特有のトランスセクシャルたちが集まる一大フェスティバルとして大きな注目を集めるようになった。映画はその祭の模様を活写しながら、性同一性障害の問題を少女の視点から描いていく。監督はインドのカリスマ撮影監督サントーシュ・シヴァン。全篇に乱舞する色彩の美しさとカメラワークの自在さは特筆ものだ。娯楽性とメッセージ性が絶妙にブレンドされた、ちょっと「濃い」清新な秀作である。また、登場するトランスセクシャルたちはもちろんすべて実際の人々。堂々と自己を主張する彼女たちの祭典が今、始まる!!

ヒジュラとは？

インドの女装芸人集団。実際に性転換した者も女装だけの者もあるが、心は女である。祝い事の席で踊りを披露する芸能者として、その存在は古くからインドの伝統社会に根づいている。数年前に漫画家の西原理恵子取材し「ヒジュラできるかな」を描いたことでも有名。

ナヴァラサ

NAVARASA [Nine Emotions]

2005年/インド/99分/1:1.66 /ドルビーSR/タミル語、英語、ヒンディー語

05年インド・ナショナルアワード最優秀タミル映画賞

05年モナコ国際映画祭インディペンデントスピリット賞、助演男優賞(ボビー・ダーリン)

監督・原案・脚本・撮影・製作:サントーシュ・シヴァン(「マツリノ種」)

共同脚本:ラージャー・チャンドラシェーカル、ヴィシュヌ・ヴァルダン

音楽:アスラム・ムスタファ 録音:ラージャー・クリシュナン・M. R.

編集:A. シェリーカル・ブラサード 美術:M.A. シヤー、G.R.N. シヴァジャンカル、G.R.N. シヴァクマール

出演:シュエータ(シュエータ)、クシュペー(ガウタム・ガウタム)、ボビー・ダーリン(ボビー・ダーリン)、アーシャ・バラティ(会長)

日本語字幕:杉山緑、字幕監修:袋井由布子 配給:オフィスサンマルサン、カグス 協力:チャンネルアジア

<http://www.sanmarusan.com/>

3/17(土)

レイトショー公開
連日夜9時～

モーニングショー
(土日祝のみ) 朝10時～

特別鑑賞券¥1400(税込)発売中! ●ミニシアター回数券もご使用いただけます

ユーロスペース

EUROSPACE

渋谷・文化村前交差点左折
tel 03-3461-0211

www.eurospace.co.jp

